

令和5(2023)年度 中堅教諭等資質向上研修(地区別研修:道徳教育)を開催しました

令和5(2023)年8月17日(木)実施
下都賀教育事務所 学校支援課

1 研修の目的・内容

(1)目的

- 「心の教育」の推進における道徳教育の重要性を認識し、道徳科の指導案の作成を通して、道徳科の特質を理解するとともに、ねらいに迫る授業づくりに資する。

(2)会場

- 南河内公民館

(3)内容

- 主催者挨拶 下都賀教育事務所長



- 趣旨説明及び事務連絡 下都賀教育事務所 学校支援課 担当
- 班別研修 指導案作成
 - ・ねらいとする道徳的価値の確認
 - ・ねらいの設定
 - ・中心発問及びその前後の発問の設定



2 本研修で確認したこと

【本研修の趣旨等について】

- 道徳教育は、日常的な生活場面を含むあらゆる教育活動の中で、道徳的行為が身に付くように道徳的価値を意識させながら繰り返し指導することが大切である。
- 道徳科の目標には、道徳性を養うために必要な学習の過程が明示されている。
道徳的諸価値についての理解を基に

「自己を見つめ」
「物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え」
「自己(人間として)の生き方についての考えを深める」

道徳的判断力、心情、実践意欲、態度という四つの内面的資質を育てる。

- 道徳科の授業をより充実させるには、「ねらいに迫る」ことが重要である。
→「児童生徒にどのような心を育てるのか」を明確にして授業を展開する。

【※参考】「栃木県教育振興基本計画 2025」P.19
「令和5(2023)年度版下都賀地区学校教育の重点」P.7
「栃木県道徳教育ハンドブック」P.20

3 本研修で学んだこと(参加者が記入した「研修の振り返り」より)

【授業づくり】

- ・ 「ねらい」と「中心発問」を、ここまで深く考えることはありませんでした。目の前の児童生徒の実態に沿った授業を考え、実践したいです。
- ・ これまでねらいが不明確であり、中心発問も曖昧になってしまったために授業がうまくいかなかったことも多くありました。今後は今回の研修で学んだことをしっかりと活かし、生徒の道徳心を十分に養うことのできる授業を実践していきたいです。
- ・ 子どもの反応を考えることで新たな発問が見えてくることもありました。今後も、子どもたちの反応を考えながら授業づくりを行っていきたいです。
- ・ 発問の文言を少し変えるだけで、児童生徒の反応の幅が広がりもするし、狭まりもすると思いました。今後、指導案を作成する際には、補助発問や板書の内容についても、ねらいや児童生徒に何を考えてほしいのかを意識していきたいです。
- ・ 今回の研修で内容項目分析表を初めて作成しました。何度も教材を読み返し、内容項目分析表に立ち戻ることで、自分自身の考えや展開を整理し、指導案作成を進めることができました。
- ・ 今回の研修で、本来、学習指導要領に即してねらいを決め、教材のどこを中心発問とするかなど、考えていかなければいけないのだと考えさせられました。今後の授業づくりに生かします。
- ・ 道徳の授業を通して、どんな生徒を育てていくのか、どんな態度等を身に付けさせたいのか、自分自身が自分の言葉で言えるようにしていきたいと思います。
- ・ 1から授業づくりに取り組み、教材に向き合うことで、改めて何を児童生徒に身に付けさせたいのか深く考えることができました。今後も道徳に対して正面から向き合い、児童生徒の心の成長につなげたいと思いました。

【班別研修】

- ・ 他校の先生方と、1つの教材について話し合えたことで事前に自分が考えていたものとはちがう考えに触れることができたことが非常に勉強になりました。
- ・ 実際の授業の中でも生徒の多様な意見を引き出せるように自分自身の考えを多様化させていきたいと思います。一人で考えることよりも協議することの大切さを改めて感じることができました。
- ・ 道徳について2時間協議するという経験がなかったので濃密かつ有意義な時間でした。同じグループの先生の「道徳ってしっかり考えると面白いな。」という発言のとおりで、道徳の授業を考える面白さを自分も感じました。
- ・ グループでの指導案作成において、事前研修で考えてきたことを協議することで、内容が整理されていくことが感じられ、大変有意義でした。
- ・ グループでの協議、大変勉強になりました。自分だけでは思いつかなかったことに気付かせてもらったり、発問の言葉選びの大切さを感じたりしました。

【ミドルリーダーとしての役割】

- ・ ミドルリーダーとして、今日の学びを私自身で止めるのではなく若手などに伝えることで、若手に力を付け、自分自身の考えも整理していきたいと思いました。
- ・ 週1回の道徳の授業を学年の道徳担当と一緒に、ねらいの立て方、そこから中心発問までもっていく進め方、留意点などこれらのことについて考えていきたいです。
- ・ 後輩と授業力を高めたり、先輩方からアドバイスをいただいたりしながら、今後の研修にも励みたいです。

